

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	SU	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	イギリス
派遣大学	デモントフォート大学		
期 間	2024 年 9 月 30 日～2025 年 6 月 13 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / <u>学外の学生寮</u> / アパート / その他 ()					
部屋	<u>個室</u> / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	暖房のみ○	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (9 万) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (5) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	約 4 万円	自炊が中心
学用品購入費	約 3000 円	ファイル、コンパス、印刷費など（ほぼ初期費用）
交通費	約 1 万円	旅費
交際費	約 2 万円	パーティなど
その他	約 1 万円	洗濯やドライヤー、筋トレグッズなどの生活用品購入費

合計

8 万 3000 円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

店先などでよくホームレスを見かけはするが特にこれといった被害にはあってないので治安は良い
深夜は酔っ払いが多いので危険かも
郊外には薄暗い場所も多いので特に女子が夜に一人で出歩くことは危ないかもしれない

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(10) ヶ月間	保険料	(103,930) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	HIS (Immigration Health Surcharge)		
加入期間	(12) ヶ月間	保険料	(161,341) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (Leicester)

治安も悪くなく、治安も比較的安く、ロンドンへのアクセスも悪くないので住みやすい都市ではあるが、リーズやリヴァプール、ヨークなど他の都市と比べると見所や魅力不足な街ではあると思う。他の横市の交換留学先大学と比べると論田へのアクセスの良さが一番の魅力といえる。長距離バスや電車を使えば往復£15～40ほどで行けるので気軽に日帰りで行き回れてたくさんの巨大な博物館や有名な観光地を巡ることができる。イギリスは国立博物館が基本的に無料なのでイギリスの中央に位置するという点は非常に大きな魅力だといえる。

【学業編】

1. 大学情報

大学	デモントフォート大学	所在地	レスター
最寄空港	イーストミッドランズ空港	空港からの距離	ヒースロー空港から電車で3時間ほど
空港⇄大学	(ヒースロー空港 → 電車 → レスター駅 → 徒歩 → 大学) *移動手段		
学生数	28300人	留学生数	2700人
学部	Faculty of Art, Design and Humanities (ADH) Faculty of Business and Law (BAL) Faculty of Health and Life Sciences (HLS) Faculty of Computing, Engineering and Media (CEM) *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	ADH, BA Architecture *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① 5 月 11 日～17 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Lecture</u>		<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Workshop</u>		<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Lecture</u>
午後	<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Workshop</u>		<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Lecture</u>		<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Studio</u>
	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break
	<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Workshop</u>				<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Studio</u>
	<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Workshop</u>				<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Studio</u>

② 4月28日～5月2日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Lecture</u>		<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Lecture</u>		<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Lecture</u>
午後	<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Workshop</u>		<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Workshop</u>		<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Studio</u>
	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break
	<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Workshop</u>				<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Studio</u>
	<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Workshop</u>				<u>Studio 4:</u> <u>Writing</u> <u>Architecture</u> <u>Studio</u>

3. 履修内容

科目	Block 1: Studio 1: Exploring Architecture		
履修期間	1 st term	単位数	30 credits
授業内容／形態	このモジュールでは、建築設計思考の複雑さと、それが周囲の物理的および文化的環境に与える影響を探究することを通じて、建築の学びと実践に入門します。モジュールの主な目的は、一連の創造的な課題を通じて、人間のスケールで物・空間・場所を注意深く観察することで建築デザインを問い直し理解し始めること、そして、デザインプロセスの中で遊び心を持ちリスクを取ることを学ぶことで、建築的な意思決定に自信を持てるようになることです。 スタジオ形式のワークショップでは、実験的な建築ドローイングや模型制作のスキル、それに伴う建築的な慣習を紹介します。それにより、オーソグラフィック（正投影）図面、コラージュ（2D）、物体のアッサンブラージュ（3D）といった手法や、それぞれの空間的条件との共通点・相違点を探究します。 また、このモジュールでは建築史や文化研究、そして「リサーチ・執筆・思考」の重要性についても導入します。このような焦点を通じて、建築および建築デザインの意義と役割が、私たちの過去・現在・そして可能な未来を理解するうえでどれほど重要であるかという問いを投げかけます。 このモジュールは、建築業界や職業の広い視野を養うとともに、建築思考・設計・施工において「技術的戦略」や「テクニク」が果たす役割、そしてそれらの意思決定が周囲の環境に与える影響に対する意識を高めることを目指しています。		
成績	Weight Achieved : 6/10 Grade: 55%		
YCU 振替予定	科目	海外留学科目	
	単位数		
	担当教員		

科目	Block 2: Studio 2: Experiencing Architecture		
履修期間	2 nd term	単位数	30 credits
授業内容／形態	このモジュールでは、「主体 (subject)」「客体 (object)」「空間 (space)」「場所 (place)」の関係性を探究し、実験していきます。人間のスケールに合わせた装置、骨組み、道具、あるいはボディースーツなどを制作・使用することで、「連続性」「時間」「スケール」「動き」「場所」「感覚的体験」といった要素を、プロジェクトベースの演習を通じて探究・実験・発展させます。 また、「アニメーション」「映像」「ストーリーボード」「タイムラプス写真」		

	などの描画・模型制作の応用技術が導入され、時間軸を含む建築、空間の連なり、感覚的な体験を探究し、記録する力を養います。さらに、設計対象となる「場所」の測定や文脈の分析もより深く行い、設計の対象となる場所が持つ豊かさ・複雑性・奥行きを理解できるようにします。 加えて、建築人文学と設計作業を統合することを通じて、批判的思考力をさらに伸ばしていきます。本モジュールでは、設計の意思決定や建築実務における倫理についても導入され、特に以下の 2 点に焦点を当てます：第一に、「アイデンティティの政治」「インクルーシビティ（包摂性）」「アクセシビリティ（アクセス可能性）」が空間設計や空間的行為（spatial agency）にどのように影響を与えるかを理解すること。第二に、素材の選択が建築された環境や自然環境全体に与える影響への認識を深め、「循環型経済（circular economy）」が倫理的な建築において果たす役割を理解することです。	
成績	Weight Achieved: 6/10 Grade: 64%	
YCU 振替予定	科目	海外留学科目
	単位数	
	担当教員	

科目	Block 3: Studio 3: Creating Architecture		
履修期間	3 rd term	単位数	30 credits
授業内容／形態	このモジュールでは、既存の敷地と特定のユーザーの両方に応答する、あなたにとって初めての建築提案に取り組みます。これまでの Studio 1 および Studio 2 での設計経験を振り返り、建築的探究の出発点を定めます。そして、それに基づいて、設計課題で提示された具体的な敷地とユーザーに対応するための設計戦略を構築し、提案を検証していきます。 また、自ら選んだユーザーのニーズをより詳細に理解するために、設計課題を発展させていく方法も学びます。これに並行して、Studio 2 で行った初期の敷地調査を発展させ、「定量的（ハード）」および「定性的（ソフト）」な視点から敷地を調査・分析し、その敷地の文脈にふさわしく、配慮の行き届いた空間的提案を行うことを目指します。 さらにこのモジュールでは、すべての設計思考に「気候リテラシー（climate literacy）」を適用することを支援し、素材、構造、環境に関する原則や戦略を設計提案と結び付けていきます。同時に、倫理的な建築実践に関連するプロフェッショナルな姿勢も育成します。空間的正義（spatial justice）と空間的行為主体性（agency）の理解も深め、特定のユーザーの具体的なニーズに焦点を当てることを通してそれらの概念を実践的に捉えています。		

成績	6/10, 59%	
YCU 振替予定	科目	海外留学科目
	単位数	
	担当教員	

科目	Block 4: Studio 4: Writing Architecture		
履修期間	4 th term	単位数	30 credits
授業内容／形態	このモジュールでは、現代および現在進行形の建築史・理論・実践について学びます。特に「建築のテクニクス（構法的側面）」「経験の理論」「時間性を伴う建築（time-based architecture）」に焦点を当てています。 このモジュールを通じて、建築に関する文章や建築作品を読み解く力を養い、「読む力」と「書く力」を発展させながら、アカデミック・ライティングにおける基本的な慣習の活用方法を学びます。 また、地球規模の気候危機やその他の文化的・文脈的課題といった現代的な背景の中で、重要な建築運動、建築家、アーティストたちの活動を探求し、そうした学びが Studio 3 での自分自身の建築プロジェクトにどのような影響を与えうるかについても考察します。 さらに、特定のケーススタディやテキストに対して、読解・ドローイング・模型制作・スケッチなどの手法を用いて分析・解体していくことにより、より深い理解を目指します。		
成績	59%		
YCU 振替予定	科目	海外留学科目	
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

イギリス留学を通して、一人で生活することの大変さ、日本人としてのアイデンティティ、そして建築の面白さを学んだ。

これまで海外旅行の経験はあったが、日本以外の国に住み、生活するのは初めてだった。それ以前に一人暮らしすらしたことがなく、全くの異国の地での生活は最初の二か月ほど試行錯誤の連続だった。現地のスーパーでは英語表記しかなく、買い物から自炊、掃除、洗濯まで全て自分でこなす中で、どれほど家族に支えられてきたかを痛感した。ただ、家事を続けるうちに調理の楽しさを見つけ、現地の食材で様々な料理に挑戦するようになった。その経験が後の旅行でも、各地のローカル食材を試してみるきっかけになったと思う。海外で一人暮らしを乗り越えたという事実は大きな自信となり、異文化環境でも自分の力を発揮できるという感覚を得られた。

もう一つ大きな学びは、自分が「日本人」であることを強く意識した点だ。日本でも外国人と接する機会は増えているが、イギリスのように多民族が共生する社会は初めてだった。授業のディスカッションや日常の会話で日本について質問を受けることが多く、そのたびに自分の文化や価値観を見直した。特に「自分の個性」をテーマにした発表では、日本人であるという立場が国際的な場で大きな特徴になり、世界の人々から信頼を得る要素になっていることを実感した。この経験を通じて、日本人として生まれ育ったことの恵みを強く意識するようになった。また、日本文化の存在感を改めて知った。特にアニメはイギリスでも圧倒的に人気があり、それをきっかけに多くの友人をつくることができた。文化の壁を越えて人と繋がる喜びを感じ、交流が留学生生活を豊かにしてくれた。

現地の大学では建築学部を選び、初めて本格的に建築を学んだ。スケッチから始まり、3Dプリンターやウォータージェットカッターといった最新技術に触れる機会もあり、毎日が新しい学びの連続だった。建築の歴史やモデル制作、断熱材などの構造材に関する基礎知識、さらには CAD ソフトの習得など、とにかく未知の分野に飛び込んでいる感覚だった。その中で特に印象的だったのは、日本の建築の独自性に気づいたことだ。隈研吾という世界的な日本人建築家の作品に出会い、図書館や建築事務所の資料を通じて学ぶうちに強く感化された。それまで建築家は「カッコいい建物をつくる存在」だと思っていたが、隈の建築は地域に根ざし、その土地の魅力を最大限に引き出すことを目的としている。その思想に触れ、建築の奥深さと日本人としての誇らしさ、そして建築そのものの面白さを強く実感した。

交換留学という特別な機会に、これまで学んだことのなかった分野を英語で学んだ経験は、自分の興味関心を大きく広げてくれた。そして新しく芽生えた関心に正面から向き合う面白さを知った。この一年間は、自分の学びに対する姿勢そのものを変えてくれた時間だった。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

現在三年生として就職活動に取り組む中で、この一年弱の留学生活は非常に貴重で有意義な経験であったと実感している。特に、世界基準の視点を得られたこと、自分の英語力とコミュニケーション能力に自信を持てたことは大きな成果である。また、イギリスをはじめとするヨーロッパの建築を学び、日本の建築と比較する中で、建築そのものへの強い関心を抱くようになった。将来は人々の「住生活」に携わる仕事に就きたいと考えており、この留学で得た知見は今後の人生に大きな影響を与えると感じている。特に、持続可能な建築が世界的に求められる今、日本で古くから受け継がれてきた木材加工技術は世界に誇れる強みであり、自らもその伝統に関わりたいと考える。そして、この留学を通じて培ったユニークな経験を生かし、グローバル人材として日本の建築技術を世界へ発信する一端を担いたい。また、この留学を通して出会ったたくさんの仲間との絆も大切にし、今後の人生においても活かしていきたい。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

交換留学は多額の費用と大学生の半年や一年という本当に貴重な時間を費やすことになります。せっかくそれだけのコストをかけるのだからこれから留学に臨まれる皆さんには入念な計画とチャレンジ精神を大切にしていきたいです。幸い海外では日本で暮らしているよりも周りの人からアクティビティに誘われる機会が増えると思います。ですからそういう時は「まず挑戦してみる」という姿勢を大切にしてほしいです。実際ただ留学したからといって英語力が自然と身についたり、外国人の友人が勝手にできたりすることはありません。自分から友人を誘えなくても良いので、まずは誘われたら乗ってみるというスタンスでいると充実した留学生活になると思います。特に近年はアニメやゲーム、食文化などの影響で日本人だということを明かすと一定数の人は自分に興味を持ってくれます。そんな機会を逃さず、明るく文化交流ができると友人の輪が自然と広がり、留学先でのホームシックや心細さを和らげることができます。皆さんの留学が大学生活の最高の思い出の一つになったら幸いです。楽しむことを忘れず、頑張ってください。